



平成 23 年 9 月 20 日

各 位

会 社 名 宝ホールディングス株式会社
代 表 者 名 取締役社長 大宮 久
(コード番号 2531 東証、大証 第 1 部)
問 合 せ 先 IR 室長 掛見 卓也
T E L (0 7 5) 2 4 1 - 5 1 2 4

平成 24 年 3 月期 第 2 四半期累計期間の連結業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成 23 年 5 月 10 日に公表した平成 24 年 3 月期(平成 23 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日)の第 2 四半期累計期間の連結業績予想を下記の通り修正しますので、お知らせいたします。

記

1. 平成 24 年 3 月期 第 2 四半期累計期間の連結業績予想数値の修正(平成 23 年 4 月 1 日～平成 23 年 9 月 30 日) (単位:百万円、%)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	四 半 期 純 利 益	1 株 当 たり 四 半 期 純 利 益
前回発表予想 (A) (平成 23 年 5 月 10 日発表)	94,500	2,300	2,400	900	4 円 33 銭
今回修正予想 (B)	95,300	3,000	3,100	700	3 円 37 銭
増 減 額 (B-A)	800	700	700	△200	—
増 減 率 (%)	0.8	30.4	29.2	△22.2	—
ご参考:前期実績 (平成 23 年 3 月期第 2 四半期累計)	91,472	3,248	3,234	1,378	6 円 62 銭

2. 修正の理由

売上高は、宝酒造グループにおいて、ソフトアルコール飲料や清酒の販売および海外における日本食材卸事業を中心に計画を上回る見込みです。また、タカラバイオグループにおいては、遺伝子医療事業で計画を上回る見込みです。以上の結果、連結売上高は前回発表予想を 800 百万円(0.8%)上回る見通しとなりました。

利益面では、売上高の計画超過に加え、宝酒造グループの販売促進費、タカラバイオグループの研究開発費を中心に販売費及び一般管理費が計画を下回る見込みとなり、営業利益で 700 百万円(30.4%)、経常利益で 700 百万円(29.2%)、前回発表予想を上回る見通しとなりました。

一方、特別損益において、東日本大震災に伴う特別損失が当初の見込みを上回る見通しであり、また、株価下落の影響を受けて投資有価証券評価損を計上する見込みです。以上の結果、四半期純利

益は前回発表予想を 200 百万円(△22.2%)下回る見通しとなりました。

なお、本日、バイオ事業を行う当社の連結子会社であるタカラバイオ株式会社(コード番号 4974 東証マザーズ)も、第 2 四半期累計期間の業績予想に対する修正発表を行っております。

3. 平成 24 年 3 月期 通期の連結業績予想について

通期の連結業績予想につきましては、業績予想修正の有無も含め現在精査中であり、平成 23 年 11 月 4 日に予定している第 2 四半期決算発表時にお知らせする予定です。

※ 上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、平成 23 年 11 月 4 日発表予定の決算発表数値とは異なる可能性があります。

以 上

当資料取り扱い上の注意点

当資料中の当社の現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、これらは現時点において入手可能な情報から得られた当社経営陣の判断に基づくものですが、重大なリスクや不確実性を含んでいる情報から得られた多くの仮定および考えに基づきなされたものであります。実際の業績は、さまざまな要素によりこれら予測とは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える要素には、経済情勢、特に消費動向、為替レートの変動、法律・行政制度の変化、競合会社の価格・製品戦略による圧力、当社の既存製品および新製品の販売力の低下、生産中断、当社の知的所有権に対する侵害、急速な技術革新、重大な訴訟における不利な判決等がありますが、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。